

2017年度 支援者のための研修会

日 時：10月12日(木) ・ 11月9日(木) ・ 12月12日(火)

18:30～20:30

会 場：白梅学園大学

対 象：保育者・教員・その他支援者

受講料：1回 1,000円 (全3回申込み 3,000円) ★受講料割引適用講座ではありません

定 員：各回120名(定員になり次第、締め切ります)

豊かなアセスメントを通して 子どもへの支援を探る

保育や教育の現場では、発達障害をはじめとした気になる子どもの問題があげられています。そういった子どもたちを支援するためには、子どもをどう理解し、どう支援の方針を立てていくのか、たえず子どもの状態をアセスメントし続けることが必須になります。今回の研修では、子どもを理解するためのさまざまな視点を学び、改めて授業場面や遊びの場面、そして検査などを通して、どのように子どもを理解するのか、子どものニーズをどうようにくみ取っていくのかを一緒に考えていきたいと思います。

◆10月12日(木) 18:30～20:30

「幼保小の支援をつなぐアセスメント ～幼児期・学童期初期を中心に～」

飯野 雄大 白梅学園大学特任講師

保育所・幼稚園などの姿やその先にある小学校1,2年生ぐらいまでの姿をどのように理解するのか考えます。就学相談など移行期のアセスメントなどを紹介しながら、幼児期の遊びや人間関係が小学校以降のどのようにつながっていくのかをアセスメントという視点から考えたいと思います。

◆11月9日(木) 18:30～20:30

「子どもの自己理解につながるアセスメント ～学童期中期以降を中心に～」

市川 奈緒子 白梅学園大学准教授

学童期の中期になると、子どもたちは他の子どもと自分を比較したり、自分の苦手なことを気にしたりしていきます。その中でアセスメントや支援をしていく上でも本人の理解が必要になります。子ども自身が自分のことをどのように理解していくのか、学習の方法を振り返ったり、他者との関係を振り返ったりするなど、当事者の参加を踏まえたアセスメントのあり方を考えたいと思います。

◆12月12日(火) 18:30～20:30

「現場の支援者に学ぶシンポジウム」

保育園の先生、小・中学校の通級学級の先生方にご登壇いただき、パネルディスカッションの形でそれぞれの、現場でのアセスメントについてひとり20分ほどずつ報告していただきます。その後、飯野・市川も交えて、会場の参加者の疑問や意見ももらいながら、支援のためのアセスメントのあり方について深めていきます。